

玉垂

たまだれ
No.29



古式舞楽行列 (4月18日)

<http://www.okunijinja.or.jp>

水の恵み

もみじの新緑が眩しい季節となりました。境内を南北に流れる宮川のせせらぎの音が気持ちよく心に響きます。この宮川には二カ所の水口があります。宮奥堰堤の水口からの水路は、御本殿の廻りを北側から西側へと沿うように進み、参集殿と社務所の地下を一部通ります。さらに、参道の西側を南下して、ことまち池に至ります。池からは太鼓橋まで進み、花菖蒲園に流れます。もう一カ所の斎館裏からの水路は、参道東側の杉や檜の境内林の中を進み、太鼓橋にて合流します。二つの水路は約三五〇年前に描かれた神社周辺の古地図にもあり、境内林への水の供給と防火用水としての役目は古より何ら変わりがないことを示しています。また、花菖蒲園に至った水は、うまし水として初夏に咲く可憐な花菖蒲を育ててくれています。

御本殿の御垣内には「真名井」があり、その水は神事と古式神酒の製造にだけ使われます。毎日ご神前にお供えする神饌を調理する建物の南側にあり、檜皮葺の屋根が井戸を覆っています。正月寒中の初丑の日の丑の刻(午前二時)に汲んでお祓いした水は「御霊水」といわれ、家の四隅に注ぐと年中火難がなく安泰に過ごすことが出来ると伝えられています。また、年四回の「古式神酒」の製造では、先ず仕込みの前に真名井の水温を測ります。その後、蒸された米と糶を木製の樽に入れ、続けて水を入れます。水量は米の量にもよりますが、二十六〜四十リットル程です。添え仕込みの時も、同様に真名井の水を使います。その後、約一ヶ月で熟成された神酒は、祭典にてお供えされます。

宮代伏間地区に鎮座する塩井神社には、「塩井戸」があります。江戸時代の記録によると、「一宮山中にあつて、何時も干満があり、味は潮のようである。大雨や洪水で塩がない時は、この塩水を汲んで煮て、お供えの塩に用いる。」とあり、当時の神職達の神饌調達の苦労を窺い知ることが出来ます。また、四月の例祭前に塩井神社では、「垢籬祭」が斎行されます。浜下りともいわれ、お祓いのお祭りとなります。ここでも塩井戸の水が汲まれ神社に持ち帰られ、神職及び舞楽人は例祭の間、お風呂にその水を注ぎ浄めます。一方、塩井戸の水は胃腸の薬とも云われ、時には汲んで持ち帰る参拝者の方も居られます。

この様に神社では様々な形で杜の水の恵みを受けています。当社に限らず全国の多くのお社には鎮守の杜があり、それぞれ懸命に杜を守る努力をしておられます。神社の護持発展のため、今後も氏子崇敬者の皆様方のご理解とご協力を戴けますようお願い申し上げます。

例祭の斎行

本年の例祭は四月十七日（土）より十八日（日）の二日間に亘り、諸祭典・行事が滞りなく執り行われました。四月中旬の気温としては例年を下まわる肌寒い日となりましたが、好天に恵まれ例祭にあさわしい日和となりました。

十七日は、前日祭と詠歌を神前に奉告する献詠祭、氏子地区で新たに出生及び転入された方を神前に奉告する氏子入り奉告祭が斎行されました。また舞殿では国指定重要無形民俗文化財に指定されている十二段の古式舞楽（試楽）が奉奏されました。

十八日は午前十時より、静岡県神社庁長・富知六所浅間神社宮司櫻井豊



宮司以下参進（4月18日）

彦様を始め書家・杭迫柏樹様、日本画家・鳥居禮様ほか大勢の皆様のご参列を戴き厳粛に斎行されました。

午後二時からは神幸祭が斎行され、神輿渡御・勅使行列が行われました。本年の勅使役には、森町観光協会長・松井晴山様にご奉仕を戴きました。また可愛らしい衣裳を身にまとった稚児の奉仕者達は長いお祭りにもかかわらず、最後まで一生懸命にご奉仕をされておりました。十八日が本日となる古式舞楽は午前十一時より午後八時頃まで奉奏され、氏子の安泰と繁栄を祈願いたしました。

境内では、新茶手揉みの実演・弓道愛好会による大弓会が催されるなど、終日参拝者にて賑わいました。



古式舞楽「太平楽」の奉奏（4月17日）



神幸祭の神宝捧持の皆様（4月18日）



勅使役・松井晴山氏（4月18日）



神幸祭の獅子（4月18日）



稚児行列奉仕者の皆様（4月18日）

古式舞楽奉仕者御芳名

(敬称略)



舞楽人一同 (4月17日)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 指南役 白幡 富幸 | 行司 天野智加 篤 | 副行司 小澤 廣一 | 師匠 大場 詞信 | 師匠 北嶋 恵介 | 高木 明誠 | 内藤 勝幸 | 鈴木 俊之 | 鶴見 隆 | 小林 静雄 | 村上 徹也 | 建部 春久 | 大場 隼磨 | 大場 澁太 | 高木 凱矢 | 佐藤 瑞樹 | 小池 竜矢 |
| 色香 小川 正恭 | 朝比奈 幸 | 山本 一幸 | 鈴木 勝浩 | 嶋田 秀邦 | 狩野 高士 | 西尾 昌人 | 成瀬 満雅 | 野野 泰隆 | 白幡 佐彦 | 鶴見 和弘 | 岩瀬 公紀 | 塩澤 佳夫 | 鈴木 裕也 | 内山 敬浩 | 村松 浩一郎 | |
| 雅匠 鶴見 俊之 | 衣菱方 鶴見 隆 | 稚児 村上 徹也 | 太平楽 大場 隼磨 | 大場 澁太 | 高木 凱矢 | 佐藤 瑞樹 | 小池 竜矢 | | | | | | | | | |

太平楽・稚児舞・巫女舞

(敬称略)



巫女舞

- 岩満 夏海・鈴木みさと
板倉 永奈・村松 牧歩



稚児舞

- 村上 慎・村松 也
建部 春久・大場 隼磨



太平楽

- 大場 高木 凱矢
佐藤 瑞樹・小池 竜矢

雪洞 献燈御芳名 (敬称略・順不同)

- | | | | | |
|--|--|--|--|---|
| <p>ヤマ発動機(株)森町工場
(株)鈴木長十商店
(株)ネクス
かんなぎ
(有)太田茶店
保食や
(株)久米吉
(株)デイトナ
森のどうぶつ病院
都野加工所(有)
青木恒産
三木の里カントリクラ
日本温装工業(株)
松田齒科医院
魚泰
(有)富士鉄工
(有)大寶建設
金山化成(シズオカ)(株)
山本環境整備(株)
杉本金属工業(株)
長岡香料(株)静岡工場
サンロード機販(株)静岡工場
(有)加藤はつり工業所
太雄工業(株)
ぴあタウンシャトー中川
栗匠あさおか
鈴木農園
(株)伸孝
あさひな(株)
(株)ダイゴ
(有)すずき工業
(有)朝比奈造園
(有)ヤマニシ建築
石橋 寛一
ユージン(有)
野口園
(有)ウオーク
亀山 銀男
(有)オーキッド
大塚彫刻工芸
鈴木土建(株)</p> | <p>(有)今泉土木
フナギテツケン(株)
エムケイデンキ(有)
ハマネツ(株)森町工場
カポットハウスオオタ
遠州ポテト(有)
(有)一本機械店
(有)大井製作所
深井無線工業(株)森町工場
大同ミスター(株)静岡工場
かねとよ(株)
ツカモト(株)
エムデュー
(有)校井工業所
(有)守屋モーター
(有)ムラマツ住建
内山商会山梨店
家本工務店
やまびこ(株)関東工場
日本工機(株)
アカネ造園土木(有)
インテリア村松(有)
山田建設
高木建築
高木工業
森のびよりら
森のびよりら
鈴伍酒店
へやーサロシタカギ
森のカフエひだまり
(有)萩原造園
共栄土建(有)
桜田製作所(株)森町工場
みどり写真館
一宮郵便局
暁雲窯
(有)サレステカトリックラ
(有)石田茶店
(有)鈴木次郎商店
(有)高島商店
松浦製茶(株)
栗田商店
松ヶ谷診療所
遠州中央農協園田支店</p> | <p>入鹿ハム
山本美容院
美容室たけしの店
田中屋酒店
三幸産業(株)
家本建機工業(株)
木創工房 森童
サンワ環境整備(株)
(有)天野業務店
美容室なかね
東京理容
金原石油
すずき美容室
(有)西尾工務店
豊一商店
デーフラット
一宮米店
(有)タカギ商会
佐野電工業
(有)北島電気
西村医院</p> | <p>常陸神宝(株)
リリーフ(株)
(株)PROハイサービス
(有)浦野モーターズ 森町
(株)大島寅次郎商店 福島県
(株)三水 森町
(有)久志本 森町
(有)小島屋松鶴 森町
京都泰製(株)
大石靴店 京都府
岡野建設(株)
大沼建設(株)
(有)政和電気 森町
(有)破魔矢奉製所 神奈川県
(有)丸井紙店 山梨県</p> | <p>渡辺防水工事(有)
さくら水道
伊藤米穀店
(有)栄産業
長谷川建具店
鈴木造園(有)
高柳米穀店
ビワイソーソタカヤナギ
(株)川口組
(有)ナガタ
アコルトパッケジ(株)
加藤土地家屋調査士事務所
大場 満明
(有)信濃精密
台日レストラン
氏子各地区より神賑料のご奉賛を戴きましたこと厚く御礼申し上げます。</p> |
|--|--|--|--|---|

献茶祭の齋行

四月二十二日(木) 午前十時より献茶祭を齋行いたしました。

この献茶祭は、小國神社献茶会が茶業の振興を祈り、お茶を神饌(お供え物)として献上する祭典です。当日は、森町茶商組合組合長・献茶会会長鈴木康之様を始め森町長村松藤雄様など大勢の皆様のご参列を賜りました。

また、祭典の中では献茶式が行われ煎茶道黄檗弘風流、中山かほる様、紋谷光江様によりお手前のご奉仕をいただき、滞りなく齋行いたしました。



献茶祭のお手前 (4月22日) 中山かほる氏(左)・紋谷光江氏(右)

端午祭の齋行

端午の節句の五月五日(水) 午前十時より、「こども祭」を齋行いたしました。

昨年一年間に当社で命名いただきましたお子様とご家族にご参列いただき、身体健全・無事成長のご祈願をいたしました。祭典後には、柏餅と菖蒲の葉等を授与いたしました。

端午の節句の日に、菖蒲湯に入ることで、邪気を祓い無病息災になると伝わっています。



端午祭にて「しょうぶ」の授与 (5月5日)

本宮山青葉祭の齋行

五月六日(木) 午前十一時、本宮山の頂(五一メートル)に鎮まります奥磐戸神社にて本宮山青葉祭が齋行されました。

昨年は雨天でしたが本年は好天に恵まれ、若葉に飾られた御本殿の前には五十名余の登拝者にご参列戴きました。祭典後には神札を頒ち、庁屋にて古式神酒のどぶろくや鰹の刺身などが振る舞われ、直会を行いました。

庁屋前にある石鳥居より新緑の美しい山々と遥かに遠州灘を望みながら、風薫る本宮山で爽やかな一時をお楽しみ戴きました。



本宮山青葉祭 (5月6日)

一宮さくら祭の開催

四月四日(日)、恒例の一宮さくら祭が開催されました。本年の桜は三月中旬頃の暖かさにより開花が順調に進み、さくら祭開催には絶好のタイミングとなりました。

当日は天候にも恵まれ春の行楽日和となり、大勢の参拝者やお花見の方々に賑わいました。拝殿前の舞殿では琴尺八の奉納演奏が行われ、奏でられる美しい音色が辺りに響き渡りました。枝垂れ桜付近に設けられたお茶席では、春らしい雰囲気を楽しめました。

また、メイン会場となる門前の特設舞台では、詩吟、手踊りや生バンドの演奏、ダンス等様々な演目が披露され、多くの観客を魅了していました。



一宮さくら祭・友銭会社中 (4月4日)

振興会・沖縄研修旅行の実施

隔年おきに実施しております振興会研修旅行は、富士山静岡空港を初めて利用いたしました。

二月二十四日（水）、打田文博宮司、岩瀬静夫振興会会長をはじめとする総勢二十二名にて空路沖縄県入りし、一日目に波上宮、翌日は普天満宮を正式参拝いたしました。各社の宮司様による由緒説明や境内案内等手厚いおもてなしをいただきました。三日目は摩文仁の丘にある「平和の礎」また「静岡の塔」を訪れ、戦没者を追悼いたしました。

三日間とも天候に恵まれ、沖縄に残る自然のすばらしさをも満喫した有意義な研修となりました。



沖縄・波上宮正式参拝（2月24日）



「拝殿前大提燈」・「御神燈」の奉納



鈴木愛子氏ご一同「拝殿・四神旗」の奉納



田邊 悟氏 彫刻「大國様像」の奉納



大寶建設 大場喜久司氏「拝殿用黒折敷」の奉納



幟（円田地区）

神社において年間を通し齋行される祭典の中で、特に二月の祈年祭・四月の例祭・十一月の新嘗祭は大きな祭となります。文字通り「大祭」といわれ御本殿の御扉が開かれるなど通常とは祭祀の形式が異なります。

また、この大祭を迎えるにあたり広く祭礼を告げるため、参道に建つ二基の鳥居の付近に氏子の方により幟が上げられます。参道入口の鳥居付近には毎回、宮代地区が組ごとに回り番でござ奉仕されます。さらに参道奥の鳥居付近には、円田地区より例祭に限り組ごとに回り番でござ奉仕されます。この「幟上げ」が行われると、境内は一気にお祭りの雰囲気になります。

祭典齋行にあたり、こうした諸準備も、氏子の皆様のご協力をいただいておりますことを深く感謝いたします。

古代の森シリーズ 29

のぼり 幟

当社水野名誉宮司様他界

去る四月二日午後七時他界されました。ここに衷心よりご冥福をお祈り致します。尚、名誉宮司様のご葬儀は小國神社・水野家の合同葬により、四月二十六日(月)に森町・神誠会館において斎行されました。

戦後の混乱が神社界に押し寄せている厳しい状況の中、昭和三十三年に宮司に就任され、四十一年の長きに亘り、ひたすら御神徳の宣揚と神社の興隆発展にご尽力されました。特に御本殿屋根替え等社殿の造営事業に多大なご功績を残されました。さらに、植林や植樹にも力を注がれ、四季折々の植物の育成にもご努力されました。生前名誉宮司様にお寄せ賜りましたご厚情に対し、厚く御礼申し上げますとともに、謹んでご報告申し上げます。



小國神社名誉宮司水野修次大人命の合同葬(4月26日)

花菖蒲の開花

一宮花菖蒲園は六月二十日(日)までの開園を予定しています。春先より寒暖の差があり全国的にも作物の被害が多く報じられ、境内の植物にも影響が心配されました。しかしながら、花菖蒲の新芽は着実にすくすくと伸び、次々と開花しています。

古代の森と謳われる豊かな自然を背景に約一二〇〇坪の園内では一三〇余種の早生・中生・晩生の花々が色とりどりに咲き競い、六月上旬ごろ見頃を迎えます。

ご参拝の折、初夏のひとときを是非お楽しみ下さい。



花菖蒲の開花

夏越の大祓式

六月三十日(水)午後三時より夏越の大祓式が斎行されます。

大祓とは、日常生活の中で無意識のうち、心や体についた罪やけがれを、身代わりとなる人形(形代)に移し、川に流して祓い清める神事のことをいいます。特に夏越の大祓では、梅雨の時期に多い流行病や疫病にかかることなく、暑い夏を健康で過ごせますようにと茅の輪くぐりが行われます。くぐり方は、茅の輪の手前で「蘇民将来」と三回唱え、左右左と(8の字を書くように)三回くぐります。

当日ご参列いただければ神職とともににお祓いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し



夏越の大祓式「茅の輪神事」(平成21年6月30日)



大宝殿への階段に手すりの設置(4月17日)

込みの上、ご参列いただきますようご案内申し上げます。
皆様と一緒ににお祓いをして、暑い夏を乗り切りをましよう。
小國神社社務所 祭儀課大祓係

まつり歳時記

七月〜十二月

七月 文月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十三日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 三十日 境内地譲渡記念祭 (午前八時)
- 三十一日 愛宕神社例祭 (午前九時)

八月 葉月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

九月 長月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前九時)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時半)

十月 神無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)

十一月 霜月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 明治祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 山神社例祭 (午前十時)
- 十日 甲子祭 (午前九時)
- 十五日 七五三祝祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭・稲祭 (午前九時)
- 十九日 疫神齋 (午後二時)
- 二十日 地鎮祭 (午前九時)
- 二十一日 新嘗祭 (午前十時)
- 二十三日 奉納農産物品評会 (午前十時)
- 二十七日 紅葉祭山芋賞味会 (午前十一時)
- 二十八日 もみじまつり (午前十時)

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 十八日 鎮火祭 (午後三時)
- 二十三日 天長祭 (午後九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

命名

平成二十二年一月一日
〜平成二十二年四月三十日

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小坂 | 福川 | 山田 | 櫻井 | 岡本 | 土井 | 桑原 | 藤田 | 村松 | 相澤 |
| 理乃 | りこ | 祥菜 | 裕梨 | 陵助 | 聖大 | 美沙 | 華帆 | 歩輝 | 袋井市 |
| 浜松市 | 平塚市 | 袋井市 | 掛川市 | 森町 | 磐田市 | 浜松市 | 掛川市 | 浜松市 | 袋井市 |
| 鈴木 | 太田 | 鈴木 | 大庭 | 渥野 | 佐藤 | 岡部 | 鈴木 | 深田 | かのん |
| 花栗 | 菜穂 | 韻生 | 小空 | 陽平 | 佳奈 | 琉生 | 春陽 | 掛川市 | 掛川市 |
| 磐田市 | 浜松市 | 袋井市 | 磐田市 | 浜松市 | 袋井市 | 磐田市 | 掛川市 | 掛川市 | 掛川市 |
| 鈴木 | 本多 | 阿部 | 安西 | 今村 | 山西 | 山居 | 岩本 | 赤堀 | 瑠耶 |
| 森町 | せな | 伊吹 | 春陽 | 美結 | 凜 | 竜之介 | 卓磨 | 宗磨 | 磐田市 |
| | | 御前崎 | 掛川市 | 磐田市 | 磐田市 | 袋井市 | 磐田市 | 磐田市 | 掛川市 |

○当社では、お子様の命名を申し受けております。



初甲子祭の特別神事 (3月15日)



参集殿玄関横のどうだんつつじ(4月18日)

新職員紹介



巫女
高橋 亜弓

ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願
いたします。

「小國の杜・点描」



齋館前の枝垂れ桜 (3月27日)



豊田合成(株)松原彰雄会長ご参拝 (3月1日)



大宝殿玄関前の整備事業 (4月17日)



事待池のやぶでまり (5月7日)



神徳殿前の紫蘭 (5月6日)

平成二十二年六月一日
 「玉垂」(たまだれ) 第二十九号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三五六
 印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー

平成二十二年四月十八日(日)午後二時に斎行された神幸祭にての「古式舞楽行列」を撮影いたしました。例祭期間中、舞楽の稚児は「神様の子供」として神聖視されているため、行列中は「父兄」に肩車されており、稚児自身では歩かないことと伝わっています。

表紙写真について

○昨年末にリニューアルしましたホームページには「お知らせ」と「季節の便り」というページがあります。最新の当社の情報をお伝えしようと努めておりますが、氏子崇敬者の皆様方よりのご意見・耳寄りな情報提供をお待ちしております。

○「玉垂」二十九号をお届けいたします。四月・五月の主な祭事をご報告させて頂きました。特に例祭は二年続けての晴天となり、諸祭典・諸行事も滞りなく進捗するとともに、日曜日とも重なったため、大勢の参拝者がお越しになりました。

編集後記



拝殿前の霧島つつじ (4月21日)